

# 国際商品市況（1/18~2/14）

2025年 2月 18日

<b>原油</b>	2
主任研究員 菅原 考史	
<b>銅</b>	2
上席主任研究員 李 雪連	
<b>鉄鋼原料</b>	3
上席主任研究員 李 雪連	
<b>穀物</b>	3
上席主任研究員 宮森 映理子	

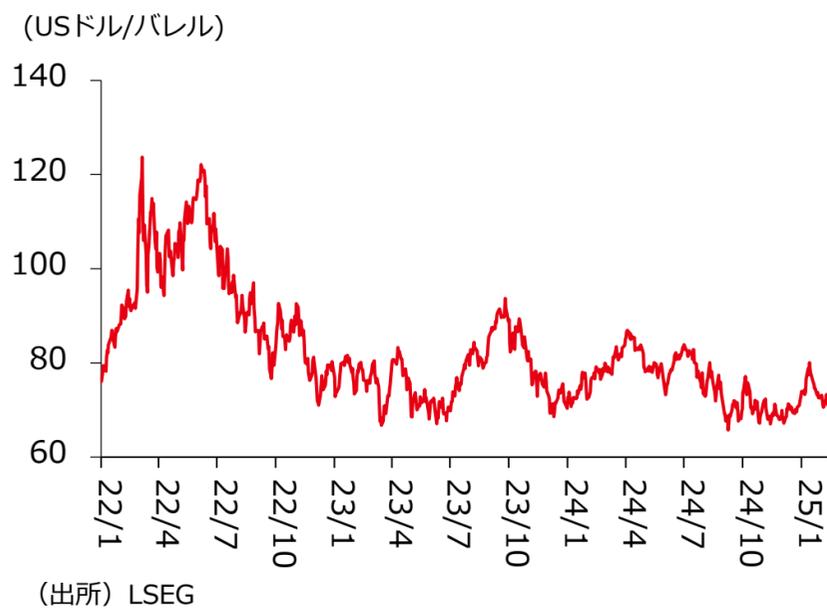
## 原油

主任研究員 菅原 考史

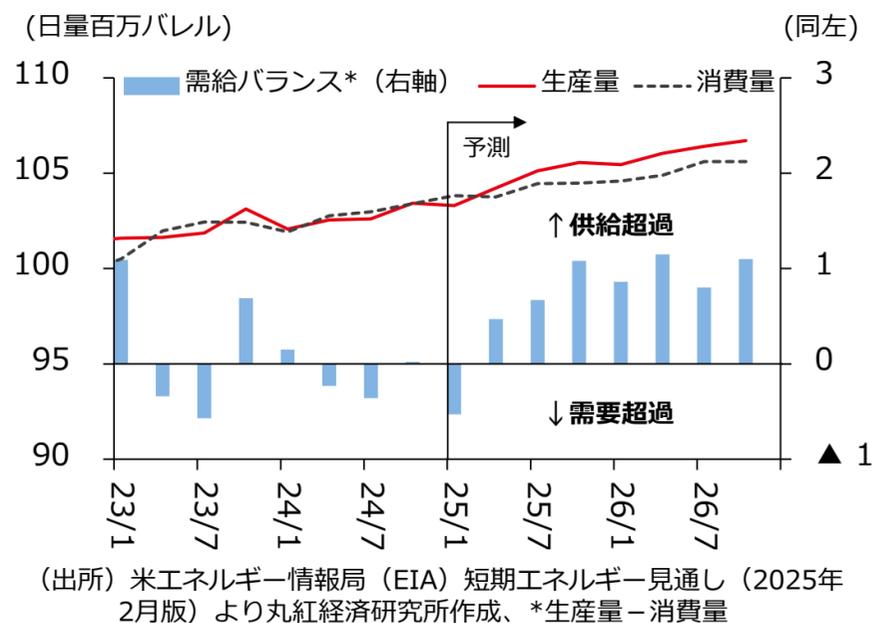
**足元の動向**：原油価格は、1月中旬に80ドルをつけてから徐々に下落。2月に入り、70ドル台前半で推移している。供給面では、3日にOPECプラスが減産緩和（＝増産）の開始時期を据え置いたが、12日に米国とロシアがウクライナ停戦に向けた交渉の開始に合意したと報じられ、供給増の観測が広がった。中東における停戦合意の履行も地政学リスクへの警戒感を弱めている。米国では追加関税発動を前にカナダからの輸入が拡大。また、冬季需要のピークアウトから在庫が増加に転じた。

**先行き**：米エネルギー情報局（EIA）は2月の月報で、米国などOPECプラス以外の追加増産と伸び悩む世界需要により、2025～26年の供給超過幅を前月予想から引き上げ。また、米国のロシアやイランに対する制裁強化や中国、カナダ、メキシコへの追加関税は、価格の変動要因と指摘。トランプ米大統領は就任直後にエネルギー緊急事態を宣言し生産拡大を示唆。世界的な需給緩和の見通しが下押し材料となり、価格は弱含む。地政学的状況や米新政権の言動は引き続き価格の変動要因。

▽WTI（期近物）



▽世界の原油需給動向



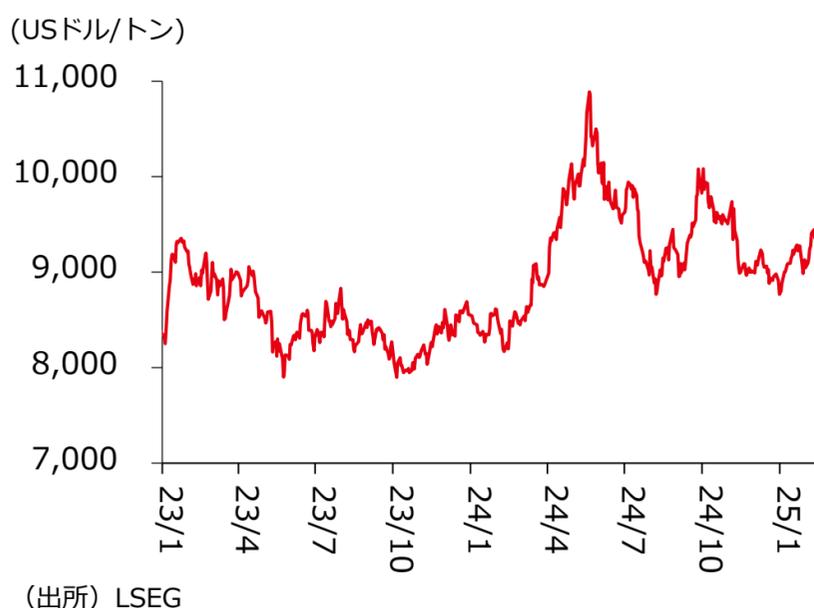
## 銅

上席主任研究員 李 雪連

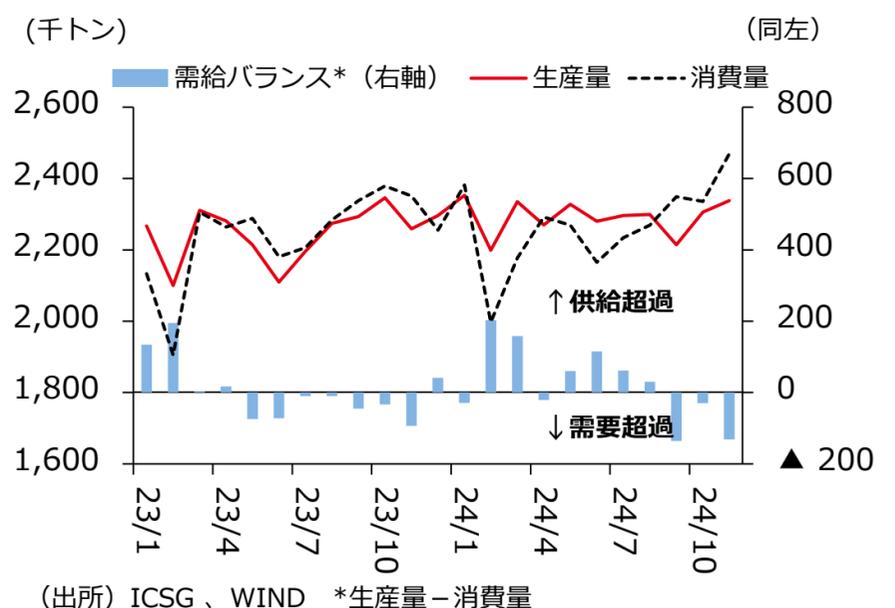
**足元の動向**：銅価格は需給の小幅なタイト化を受け9,500ドル付近へ上昇。国際銅研究グループ（ICSG）によると、11月の世界製錬銅消費量は前年比+5.0%、生産量は同+3.5%で、消費量が生産量を上回る状態が続いた。米新政権による貿易政策・脱炭素推進策の転換に備え、電気自動車（EV）や家電などの耐久消費財の駆け込み需要が価格を押し上げた。一方、足元では主要取引所の在庫量は上海取引所を中心に拡大が見られ、需給は緩和方向に向かっていることを示唆。

**先行き**：製錬銅の消費量は、中国や欧州を中心に低調と見通されるも、エネルギー転換に伴う需要が一定の下支えとなる見込み。生産量は、中国やインドを中心に鉱石由来の増産は小幅にとどまるが、スクラップ由来が全体を押し上げる見通し。足元では一時的な要因から需要が勝っているが、潜在的には生産能力が消費量を上回る供給超過の状況にあり、価格は上値の重い展開が見込まれる。中国経済の低迷長期化やトランプ政権の政策変更に伴う米国の需要減がダウンサイドリスクに。

▽銅（LME、3カ月物）



▽世界の製錬銅需給動向



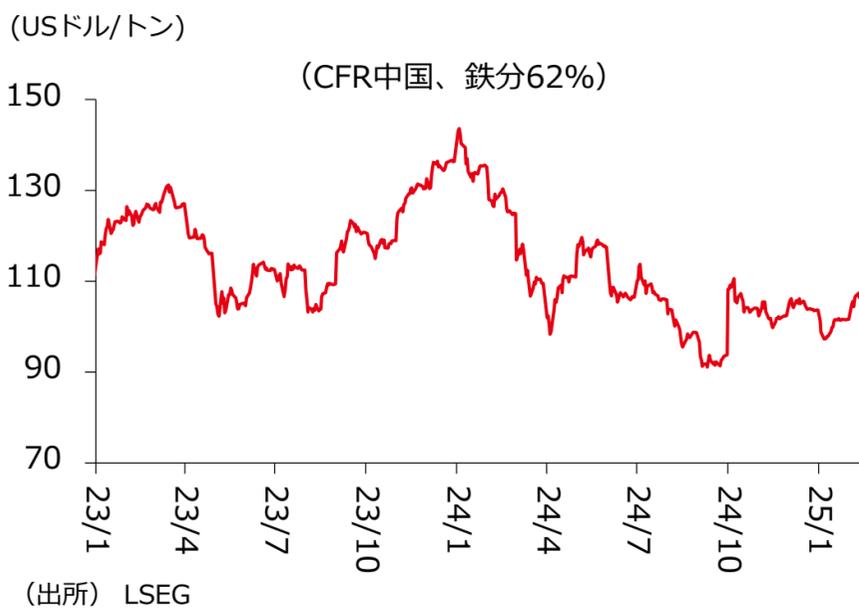
## 鉄鋼原料

上席主任研究員 李 雪連

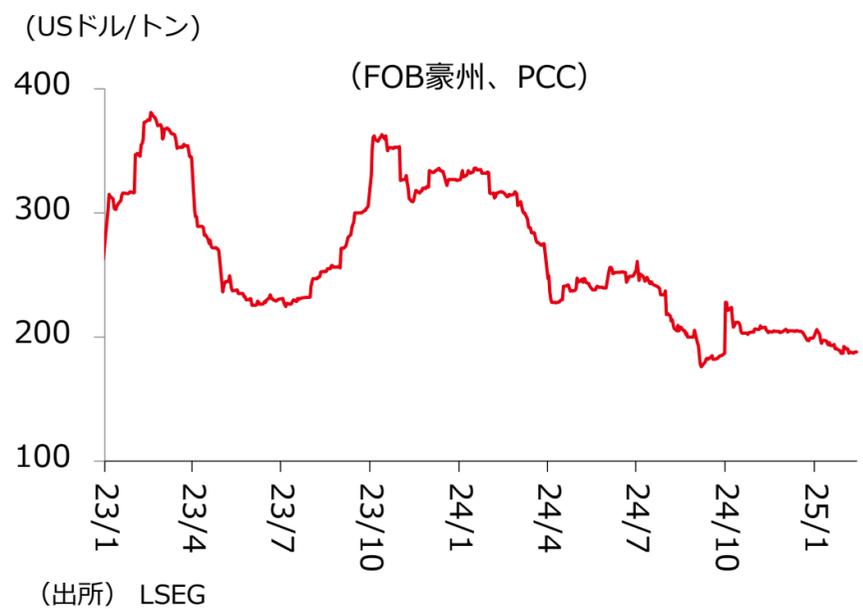
**鉄鉱石**：鉄鉱石価格は一時的な需給の引き締まりを背景に110ドル付近へ若干上昇。需要は、世界の鉄鋼生産量が12月に前年比+5.6%と米追加関税に備えた駆け込み需要などを背景に堅調。供給面では、主力産地である豪州とブラジルの出荷量合計が同▲4.1%と減少し需給がややタイト化。今後は、豪州産地のサイクロン発生に引き続き留意が必要だが、主力鉱山の供給能力は依然潤沢であるため、米追加関税が適用された中国を中心に低調な需要が重しとなり、弱含みの展開が予想される。

**原料炭**：豪州炭価格は需要と供給の増加がおおむね均衡していることを背景に190ドル付近で弱含んだ。需要面では、豪州炭の主力輸出先であるインドをはじめ世界の鉄鋼生産量の拡大が市況の下支え要因に。供給面では、主力産地である豪州クィーンズランド州からの石炭輸出量が12月に前年比+2.1%と増加するなど、潤沢な供給が続いている。今後は、豪州炭の需要、供給とも大きな変動要因が見込みにくいため、引き続き横ばいのレンジ相場が見込まれる。

### ▽鉄鉱石 (SGX、期近物)



### ▽原料炭 (SGX、期近物)



## 穀物

日本機械輸出組合出向 宮森 映理子

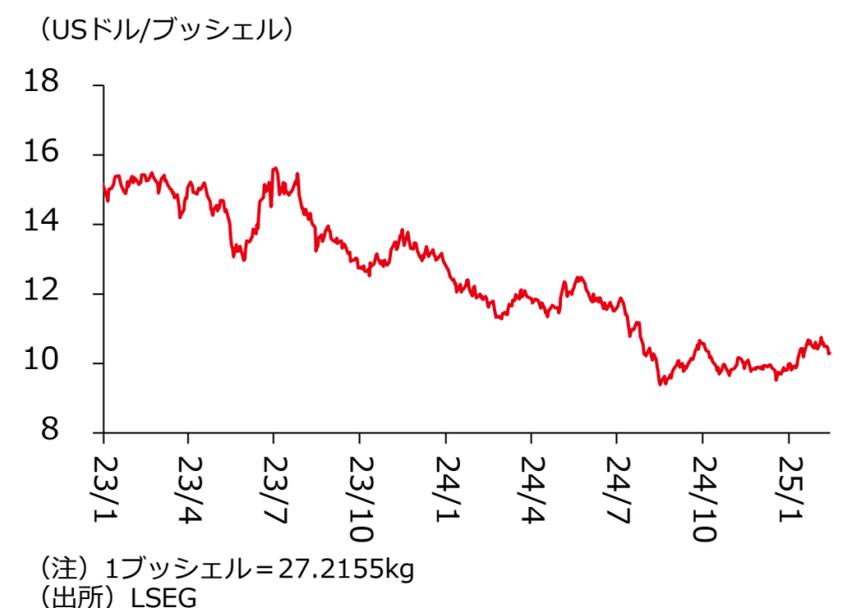
**トウモロコシ**：トウモロコシ価格は4.9ドル台までわずかに上昇した。アルゼンチンの高温乾燥やブラジルの降雨による二毛作の作付け遅延が供給不安となったことに加え、米国産輸出の成約が前年を上回り国内需給の引き締まりが意識された。米農務省の2月月報では、米国産の2024/25年度期末在庫見通しが据え置かれ、価格への影響は限定的だった。今後は南米の生産見通し下方修正観測が熾りつつも、米中摩擦の激化で米国産の輸出減少に伴う国内需給緩和が価格の重しとなろう。

**大豆**：大豆価格は10.5ドル付近と、年初来では高値圏で推移。米農務省による世界の24/25年度の生産量見通しの下方修正と需要見通しの上方修正に加え、アルゼンチンでの高温乾燥に伴う作柄悪化が下値を支持している。一方、足元の低調な米国産輸出が米中摩擦の激化でさらに落ち込むのではないかと観測から米国内の需給緩和が意識され、価格を下押した。今後は、アルゼンチンの高温乾燥の影響は残るものの、米政権の追加関税を受けた米国産買い控え観測が上値の圧迫要因に。

### ▽トウモロコシ (CBOT、期近物)



### ▽大豆 (CBOT、期近物)



(執筆者プロフィール)

**菅原 考史 (Takashi Sugawara)**

SUGAWARA-TAKASHI@marubeni.com

主任研究員

研究分野：東南アジア、デジタル経済、コモディティ

2018年、シンガポールの日系コンサルティング会社にて市場調査の経験。2019～21年、在シンガポール日本国大使館専門調査員として星内外政およびASEAN情勢の分析に従事。2022年から丸紅経済研究所にて新興国情勢や商品市況などを担当。筑波大学人文・文化学群比較文化学類卒業、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科東南アジア地域研究専攻修士号取得退学。

**李 雪連 (Xuelian Li)**

xuelian-li@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：中国、産業、商品市況

IT企業勤務を経て2005年から丸紅経済研究所で主に中国、産業、商品市況をリサーチ。講演や講義、取材、寄稿なども行う。2013～15年米国・戦略国際問題研究所（CSIS）に出向し米中関係を研究。早稲田大学アジア太平洋研究科修了（国際関係学修士）。

**宮森映理子 (Eriko Miyamori)**

MIYAMORI-E@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：サステナビリティ・ESG、LCA、電力・エネルギー、生物資源

金融機関系シンクタンクに入社後、環境・エネルギー関連の調査・コンサルティング業務に従事。スマートグリッドや再生可能エネルギー、バイオマス利活用に関する政策・市場・技術動向の分析を担当。大手小売SPAを経て、2019年から丸紅経済研究所にて、サステナビリティ・ESGに関する調査分析と社内支援に従事。ライフサイクルアセスメント（LCA）分析等の定量分析を多く担当。東京大学農学生命科学研究科修了（農学修士）。

---

## 株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。